

# 太田喜二郎と藤井厚二

## 日本の光を追い求めた画家と建築家

2019年7月13日(土)～9月8日(日) 目黒区美術館

午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日 月曜日(ただし7月15日と8月12日は開館)、7月16日、8月13日

一般1000(800)円、高大生・65歳以上800(600)円、小中生以下無料

\*障がいのある方と、その付添者1名は無料、( )内は20名以上の団体料金

\*目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります(他の割引と併用はできません)

主催 (公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協力 竹中工務店 協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網、サッポロホールディングス株式会社



① 太田喜二郎《赤い日傘》1912年  
新潟大学蔵 写真：辻 美津夫



② 藤井厚二《聴竹居》重要文化財 1928年 写真：古川泰造/写真提供：竹中工務店

本展は、洋画家の太田喜二郎と、建築家の藤井厚二、互いに親交の深かった二人を取り上げ、絵画と建築をクロスさせた新しい視点から構成する展覧会です。

太田と藤井が追求した、自然の中で移ろう光を自作にいかに取り入れるか、西洋に学んだ絵画や建築をいかに日本の風土や文化に馴染むものにするかなどをテーマに、二人の仕事を新たな視点から検証します。



## 概要

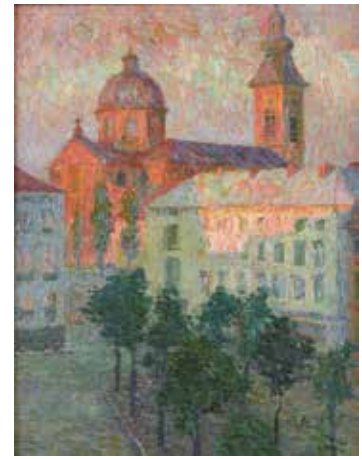
京都を代表する洋画家 太田喜二郎（1883～1951）は、東京美術学校卒業後、師 黒田清輝の勧めでベルギーに留学し、帰国後は、点描表現で農村風景を描いた明るい洋画で注目を集めたことが知られています。点描表現や印象派を日本にもたらした画家として、紹介、研究されてきましたが、1917年頃より、点描を棄て平明な洋画へと画風を変貌させて以後のことについては、従来、十分な研究がされてきたとはいえませんでした。しかし、近年、太田の幅広い人間関係を評価し、太田と他分野との深い関係の研究が進められています。

2017年には、太田と京都帝国大学の考古学者 濱田耕作の関係をとり上げた京都文化博物館による「京都の画家と考古学—太田喜二郎と濱田耕作—」展が開催されました。そのほか、東洋史学者の内藤湖南や羽田亨など、大正期の太田がさまざまな研究者と密接な交流を持っていたことが徐々に紐解かれています。さらに京都大学工学部講師として建築学科で太田がデッサンを教えていたことにより武田五一や藤井厚二（1888～1938）などの建築家とも親しい関係にあったことが明らかになってきました。

大正期、京都に建築された《太田邸》（1924年竣工）は、藤井の設計によるもので、北側採光をうまく取り入れたアトリエを持つモダンな住宅です。この太田家の設計に関する藤井のスケッチや、藤井との交流の様子を示す絵巻物・書簡などの所在が確認されるなど、京都文化博物館の研究チームによる調査が進んでいます。

広島県福山市に生まれた藤井は、東京帝国大学の建築科を卒業後、竹中工務店を経て京都帝国大学建築学科に着任します。海外視察の時に見聞した西洋の様式と日本の気候風土を融合させた環境工学を研究し、「日本の住宅」を追求しました。その究極が、何度も実験を繰り返した京都大山崎にある自邸《聴竹居》（重要文化財）です。日本の住宅にモダンな要素が加わった上に、構成が斬新なこの自邸は、自然の環境をとりこんだ空間として、近年話題になっている建築です。

本展は、太田研究を進めている京都文化博物館と、収集方針の一つに日本人美術家の滞欧米作をあげ、太田の滞ベルギー作品を収集し、さらに建築やデザインに関する展覧会を積極的に開催している目黒区美術館との共同研究により開催します。



③ 太田喜二郎《サン・ピエール寺（夕陽）》  
1910-11年 姫路市立美術館蔵



④ 太田喜二郎《樹陰》1911年 京都市美術館蔵



⑤ 太田喜二郎《夏の昼》1919年 京都市美術館蔵



⑥ 《太田邸模型》2019年 制作：二星大暉  
協力：松隈洋研究室 京都工芸繊維大学  
撮影：市川靖史

⑦ 藤井厚二《太田邸新画室（アトリエ）》  
1924年竣工 1931年増改築  
写真：古川泰造/写真提供：竹中工務店



## 展示構成

### 第1章 太田喜二郎

東京美術学校に学び、師 黒田清輝の勧めでベルギーに留学。同地にてベルギー印象派の画家 エミール・クラウスに師事した太田は、点描表現を習得しました。そして帰国後も、日本の農村を舞台に点描表現を追求するものの、やがて平滑な筆遣いによる画面構成へと変化していきました。本章では、滞欧期の代表作《サン・ピエール寺》の連作や、長らく所在の分からなかった代表作《赤い日傘》など約40点を紹介します。

### 第2章 太田喜二郎と藤井厚二の交流

京都帝国大学工学部で講師として出会った画家・太田と建築家・藤井厚二。1923年、太田は自邸の新築設計を藤井に依頼し、また1931年にはアトリエを増改築するなど関係を深めていきました。さらに共通の趣味である茶事などを通して、二人の交流は続きました。本章では、《太田邸模型》や《太田邸図面》などで同邸について概観するほか、《寿月庵茶会絵巻》などを通して見えてくる二人の交流の様子を紹介します。

### 第3章 藤井厚二

東京帝国大学を卒業後、竹中工務店に入社。その後、建築に関する諸設備および住宅研究のため欧米を視察しました。帰国後は、京都帝国大学にて教鞭を執る一方で、5回に渡って自邸を実験住宅として建てたほか、京都市内を中心に50件ほどの個人住宅を手掛けました。本章では、藤井の代表作で重要文化財の《聴竹居》を模型や秀逸な写真で紹介するほか、《喜多邸》などの個人住宅についても触れます。

## 関連催事

### ■講演会・対談

#### 1. 太田喜二郎と藤井厚二

日時：7月13日（土）14：00-15：30

講師：植田彩芳子（京都文化博物館学芸員）

#### 2. 新しい芸術と藤井厚二の建築

日時：7月14日（日）14：00-15：30

講師：藤森照信（東京都江戸東京博物館館長）

#### 3. 建築家・藤井厚二を語る

日時：8月24日（土）14：00-15：30

講師：谷藤史彦（ふくやま美術館前副館長）× 松隈章（竹中工務店）

\*各回とも定員70名（2.は事前申込制、1.3.は先着順）、聴講無料。ただし、高校生以上の入場には展覧会観覧券が必要です。

\*その他、展覧会についてお話しする「大人のための美術カフェ」などの開催を予定しています。詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。

### ■藤井厚二建築ガイドツアー「聴竹居」

日時：7月20日（土）

ナビゲーター：降旗千賀子（目黒区美術館元学芸員）、松隈章（竹中工務店）他

訪問先：京都大山崎《聴竹居》・大阪府寝屋川市《八木邸》（予定）

定員：申込先着20名 参加費：一人5,000円（交通費別途、昼食代・資料費・保険代込）

\*申し込み方法等詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。

## 展覧会図録

本展開催に合わせ、下記図録を、当館1階ミュージアムショップにて販売いたします（全国主要書店でも販売中）。

『太田喜二郎と藤井厚二ー日本の光を追い求めた画家と建築家』

発行：青幻舎

A5変型判 148頁 ISBN978-4-86152-735-7 C0070

定価：2,500円（税抜）

## 開催情報

タイトル	太田喜二郎と藤井厚二ー日本の光を追い求めた画家と建築家
会 期	2019年7月13日(土)ー9月8日(日)
会 場	目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36)
開館時間	午前10時ー午後6時(入館は午後5時30分まで)
休 館 日	月曜日(ただし7月15日と8月12日は開館)、7月16日、8月13日
観 覧 料	一般1000(800)円、高大生・65歳以上800(600)円、小中生以下無料 *障がいのある方とその付添者1名は無料、( )内は20名以上の団体料金 *目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります(他の割引と併用はできません)
主 催	(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協 力	竹中工務店
協 賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網、 サッポロホールディングス株式会社
交通機関	JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線=目黒駅西口から徒歩10分 東急バス=権之助坂(目黒通り)下車徒歩5分、田道小学校入口(山手通り)下車徒歩3分

## 本展巡回会場

京都文化博物館 2019年4月27日(土)ー6月23日(日) \*開催中

## 広報写真

本リリース掲載の写真画像を、本展広報用写真としてご提供いたします。図版に付した①～⑦が図版番号です。  
ご希望の方は、申込用紙(5ページ目)の内容をご確認の上、必要事項をお書き添えいただき、FAXでお申し込みいただくか、同内容を本展担当者宛メールにてお申し込みください。

## 本展の問い合わせ先

目黒区美術館 展覧会担当(学芸)山田 / 広報担当(事務)天野  
〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328(代)  
e-mail: mmatoffice@mmat.jp http://www.mmat.jp

# 太田喜二郎と藤井厚二ー日本の光を追い求めた画家と建築家

宛先：目黒区美術館 [担当] 山田・天野 宛て  
FAX：03-3715-9328 e-mail：mματοoffice@mmat.jp

■ 本票に必要事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の画像番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年	月	日
御社名			
ご担当者氏名			
住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 (雑誌名など)			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞 / 雑誌 / ミニコミ誌 / フリーペーパー / その他 ( ) 【電子媒体】 テレビ / ラジオ / WEB サイト / 携帯サイト / その他 ( )		
発行・放送予定日	年	月	日
ご希望の画像	図版番号 ①～⑦のご希望の図版番号をご記入ください	使用条件等 *写真画像への文字載せは不可です。 *写真の画像加工(トリミング・色調整など)は不可。但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の適宜調整を許可する場合があります。 *キャプション、クレジットは必ず明記してください。	
連絡欄			

- お申し込み受け付け後、画像データ(JPEG)のダウンロード先を返信でお知らせいたします。お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。
- 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。必ずご確認くださいませようお願いします。

## 【広報用画像について】

- ・ 画像データはメールにて送付いたします。
- ・ 画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・ データを第三者に渡すことは禁止いたします。
- ・ 使用後、データは破棄してください。
- ・ 展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・ 画像への文字載せは不可です。
- ・ 画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
- ・ 掲載紙・誌は1部、当館担当者までお送りください。
- ・ Web サイトは公開後に URL をお知らせください。
- ・ 当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介して下さる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を読者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は下記にご記入ください。  
読者プレゼント用招待券を [希望する ・ しない]

<広報用画像に関する問い合わせ先>

目黒区美術館  
TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328  
展覧会担当(学芸)：山田  
広報担当(事務)：天野